

MBA スタンダードにおける企業の健全性

黒田インターナショナル

黒田 毅

効率性と原価基準、コスト効率性は、インダストリー4.0の受け入れとともに、企業サイクルとシステムの構築において、自己生産と経営基準を新たに要求される。これら旧基準は、全く異なる現実を今日有することにおいて、自己転換を必要とする。

これら企業効率性は数量販売とともに、企業の適正と健全基準を新たに有し、これらは技術システムにおける新しい現実とともに、企業を要求する。

これらは企業運営基準を GAFAM とテスラなどと比較し、判断を求められる。これらは現実であり夢想ではない。また真実において企業要求としてそれら基準の自己への要求は、現実なのである。

これらは明らかに新しい市場参加における新しいルールなのである。

これらは新しい市場とグローバリゼーションにおいて勝者と敗者が存在する。それは資本力における新しい現実を有するのである。

これらはこの山を登れば、企業が自己の完成とともに新しい時代への参加を可能とできると考える。企業の健全性は、これら時代基準のクリアと自己資本の確保において、これら新しい市場への参加を実現できるのである。

これらは新しい企業効率性における適正利益の確保は、新しい標準化された企業経営基準なのである。

これらは経営における判断と理解を新たにして、企業運営基準の転換と新規企業計画の作成において実現できるのである。